

1945年5月8日千葉市空襲の状況

千葉市空襲と戦争を語る会 伊藤章夫

1. 5月8日以前の空襲

千葉県下の空襲記録表のうち、千葉市が該当するのは1945年1月11日、1月26日、2月25日、4月7日であるが、空襲死傷被害は記録されていない。

柴田春光証言によれば、5月のある日午前10時ごろ、生浜国民学校の上空にP51と思われる小型戦闘機の20-30機編隊が機銃掃射をして来た。

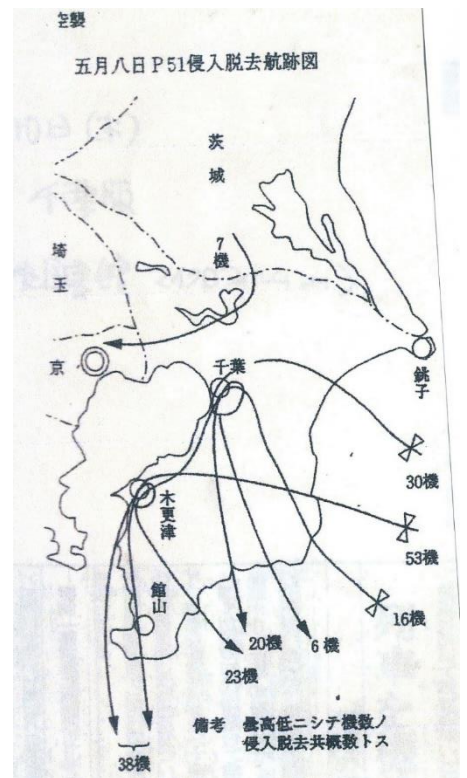
(注) これは5月8日の可能性がある。

市原繁証言によれば、1944年ごろから千葉市検見川への攻撃は焼夷弾でなく、機銃掃射であった。P51 マスタングやグラマン 4-5機の編隊が漁師を銃撃して2人死んだ。その一人は秋さんである。

東京では、1945年3月10日のB29爆撃機による大規模爆撃(約10万人死亡)があったが、千葉市では5月8日までは組織的な空襲はなかった。

2. 5月8日の空襲

5月8日の千葉市空襲は、米軍占領下の硫黄島基地から飛来したP51 ムスタング戦闘機部隊による南房総一帯への空襲の一部であり、北限である。千葉市空襲に参加した米戦闘機は九十九里浜から侵入した30機と太東岬から侵入した16機による機銃掃射攻撃である。4日遅れの5月12日付けの新聞によると、5月8日11時44分、鋸南町走行中の下り列車に銃撃(絵は6機編隊攻撃の隊形)し、「10余名の被害があった」こと、別の新聞によれば木更津では「ほとんど被害はなかった」ことを報じている。列車銃撃で死者3名、負傷者46名の犠牲があった。新聞では、米戦闘機は南房総の日本軍航空基地を目標にしていたとある。



←機銃掃射の様子